

校長 宮武 恭子

1 自己評価

(1) 評価結果（別紙参照）

(2) 今年度の具体的な取組と今後の課題

「社会の変化に対応し、地域に貢献する生徒を育てる学校」を目指す教育として掲げ、「考え抜く力」「協働する力」「挑戦する力」を育てる力と位置づけており、4つの学科が方向性をそろえ、あらゆる教育活動の中で意識することによって、その力の育成に取り組んだ。

また、岡山県教育委員会から指定を受けている「ICT活用による個別最適な学習推進モデル事業」の研究と実践を通して、学習習慣の定着による基礎学力の向上と主体的な学びの実現に取り組んだ。さらには、「スマート専門高校」事業により導入されたスマート機器の活用、地域連携による個々の興味・関心に合わせた探究活動等に加え、学科間交流授業にも取り組むことで学びの深化と充実を図った。

その一方で、生徒の心身の健康を目指す上での生徒の各種治療率や、教育活動の充実を目指す上での部活動への入部率や学校生活への満足度等については引き続き取り組むべき課題であると考えている。

2 学校関係者評価委員名

伊藤 享	(株式会社倉敷ケーブルテレビ代表取締役社長)
小河原 公平	(地域代表)
秋田 修一	(秋田税理士法人 代表社員)
岸本 長代	(財団法人倉敷成人病センター看護部参与、本校同窓会長)
小林 真美子	(本校PTA会長)

3 学校関係者評価

○主なご意見

- ・ICT活用による個別最適な学びの研究と実践について、子どもたちにはアプリ活用による成功体験（学力向上など）を通して、日々の積み重ねが大切だということを学んでほしい。
- ・4科の多様性を大切にしてほしい。4科の生徒がコミュニケーションを取ることで、互いによい学びができるのではないかなと思う。
- ・夏の異常な暑さが続いた中、熱中症を未然に防ぐ対策に学校をあげて取り組みながら、様々な教育活動にあたってくださったことに感謝している。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

(1) 学力向上の推進

- ・ICT活用による個別最適な学習推進モデル事業の実践
- ・学科における学びの深化
- ・ICTを活用した生徒理解のための情報収集の充実

(2) キャリア教育の推進

- ・ガイダンスとカウンセリングの充実
- ・社会との接続を意識した進路指導の充実
- ・特別活動の深化・充実

(3) 生徒・教職員協働によるウェルビーイングの向上

- ・豊かな心の育成
- ・健やかな体の育成
- ・チーム支援による組織的対応の機能強化